

メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム

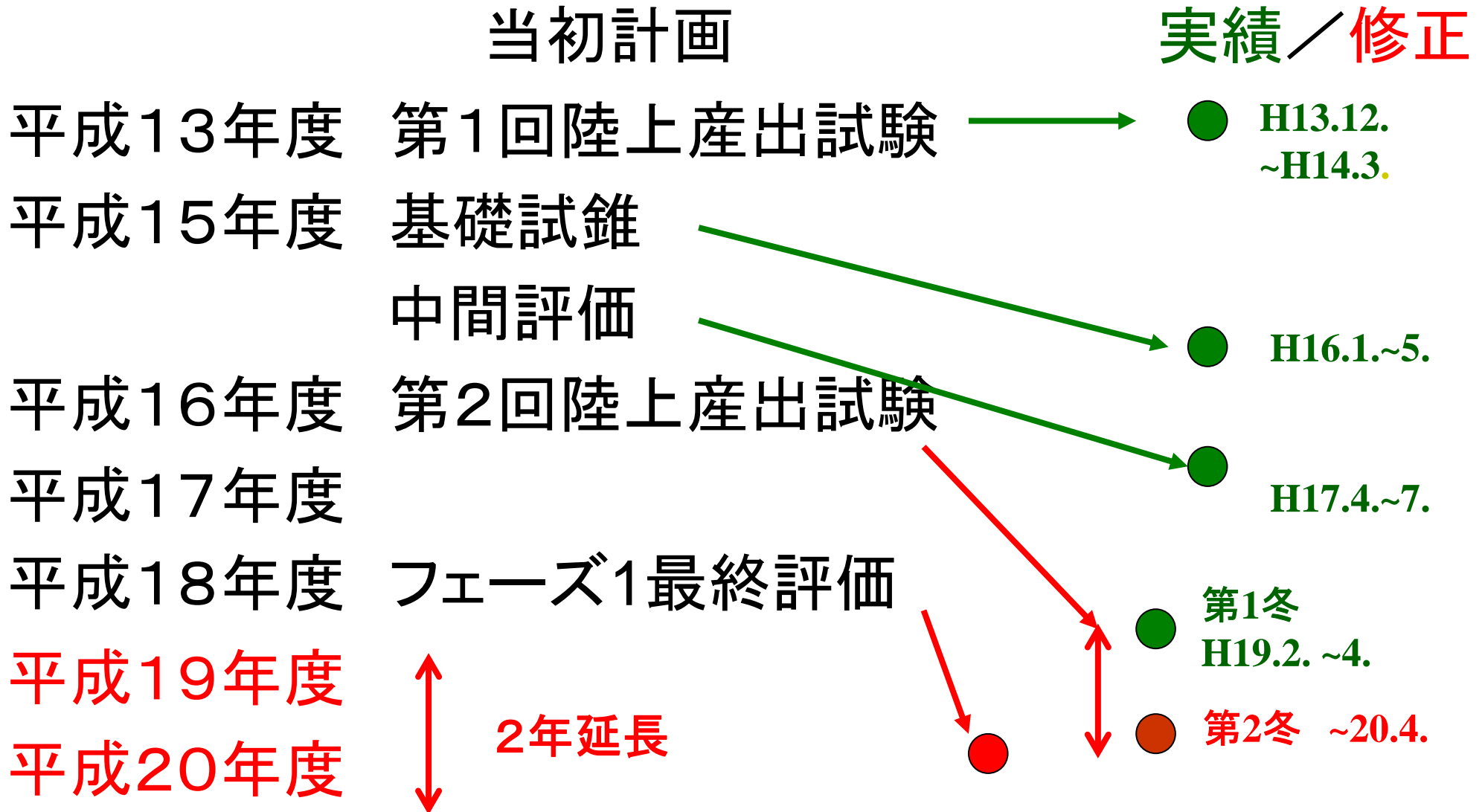
# 「平成18年度のあゆみ」

平成19年5月31日

プロジェクトリーダー

田中 彰一

# フェーズ1の計画修正



# フェーズ1の目標

「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」

(平成13年7月)経済産業省

1. 日本周辺海域におけるメタンハイドレートの賦存状況と特性の明確化
2. 有望メタンハイドレート賦存海域のメタンガス賦存量の推定
3. 有望賦存海域からのメタンハイドレート資源フィールドの選択、並びに経済性の検討

# 目標とするメタンハイドレート層

「我が国におけるメタンハイドレート開発計画」

(平成13年7月)経済産業省

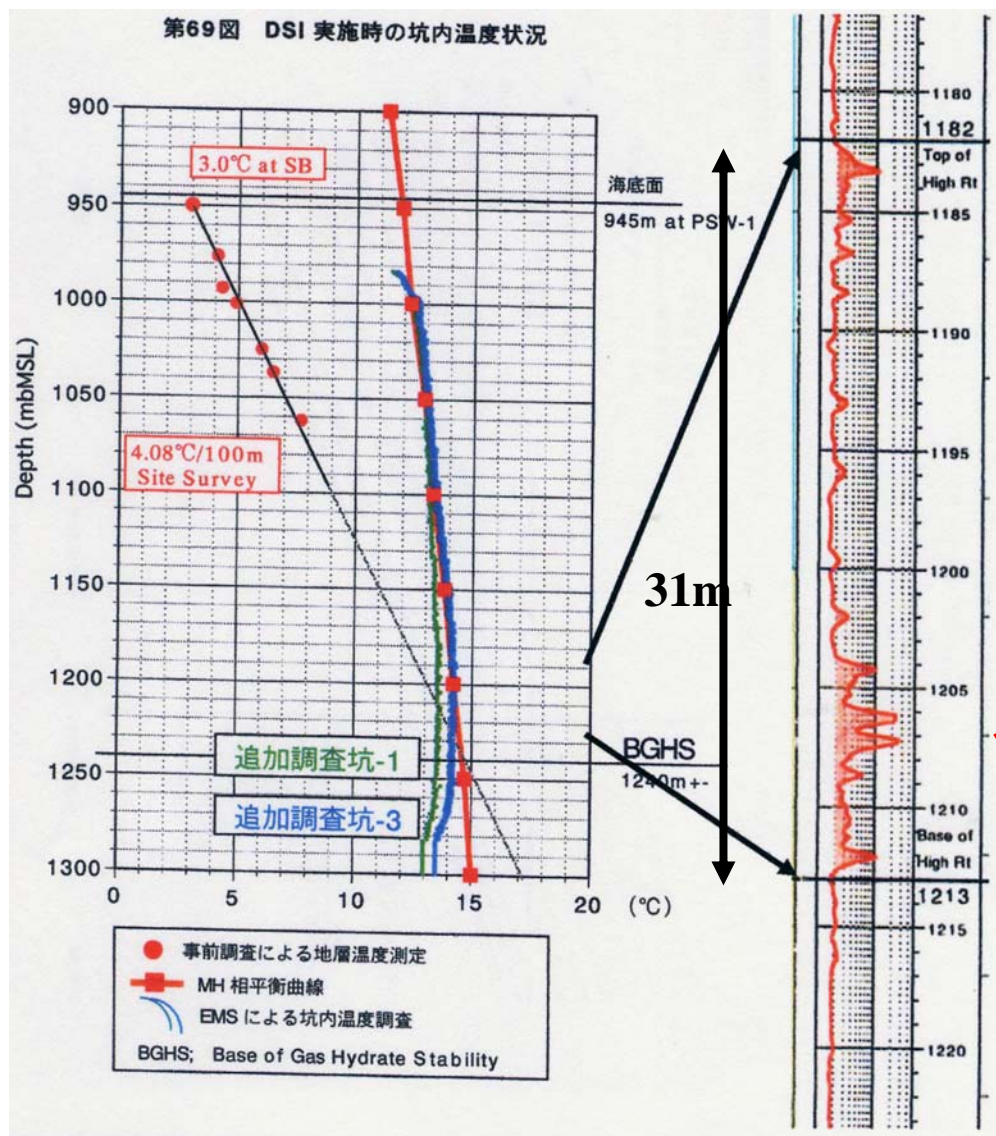
## Ⅲ 1. (2)開発の対象

本計画においては、メタンハイドレートとして砂質層中  
に賦存するものを当面の開発対象とする。

ハイドレート中のメタンガスとしてはバイオジェニック  
ガスが主体となるものと予想されるが、サーモジェニ  
ックガスについてもその存在に留意する。

(発表者下線追加)

# 基礎試錐「南海トラフ」で発見したメタンハイドレート層



平成11年11月13日～平成12年2月5日

石油公団:平成11年度メタンハイドレート開発促進調査報告書

平成11年度国内石油・天然ガス基礎調査基礎試錐「南海トラフ」調査報告書

平成17年度研究成果報告会にて発表済

# 基礎試錐「東海沖～熊野灘」検層記録

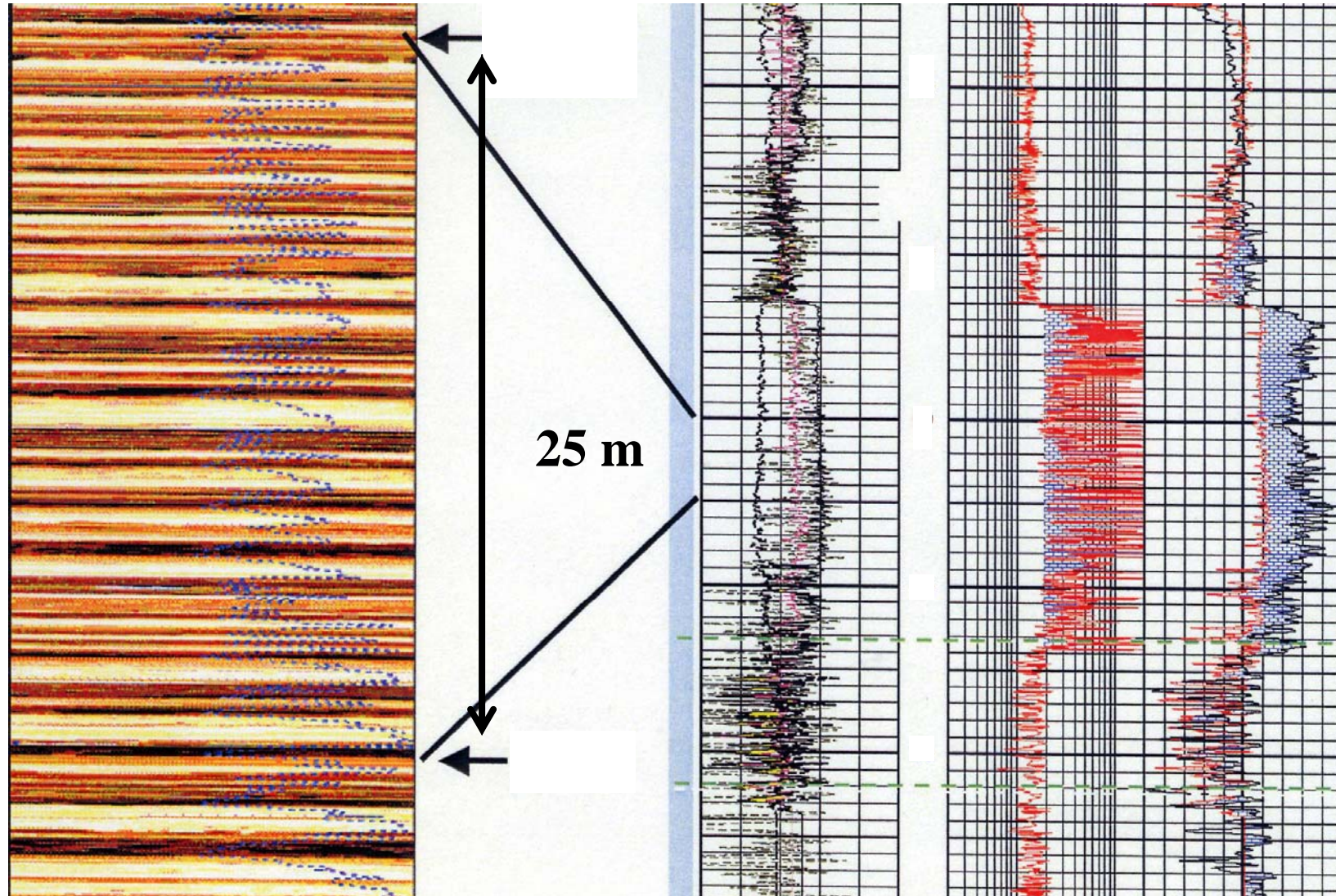
砂泥互層

砂層  
白色部分

泥層  
茶色部分

JOGMEC

平成17年度研究  
成果報告会にて  
発表済



# 基礎試錐「東海沖～熊野灘」で採取された砂質コア



JOGMEC

# カナダ マッケンジデルタ地域のメタンハイドレート存在箇所

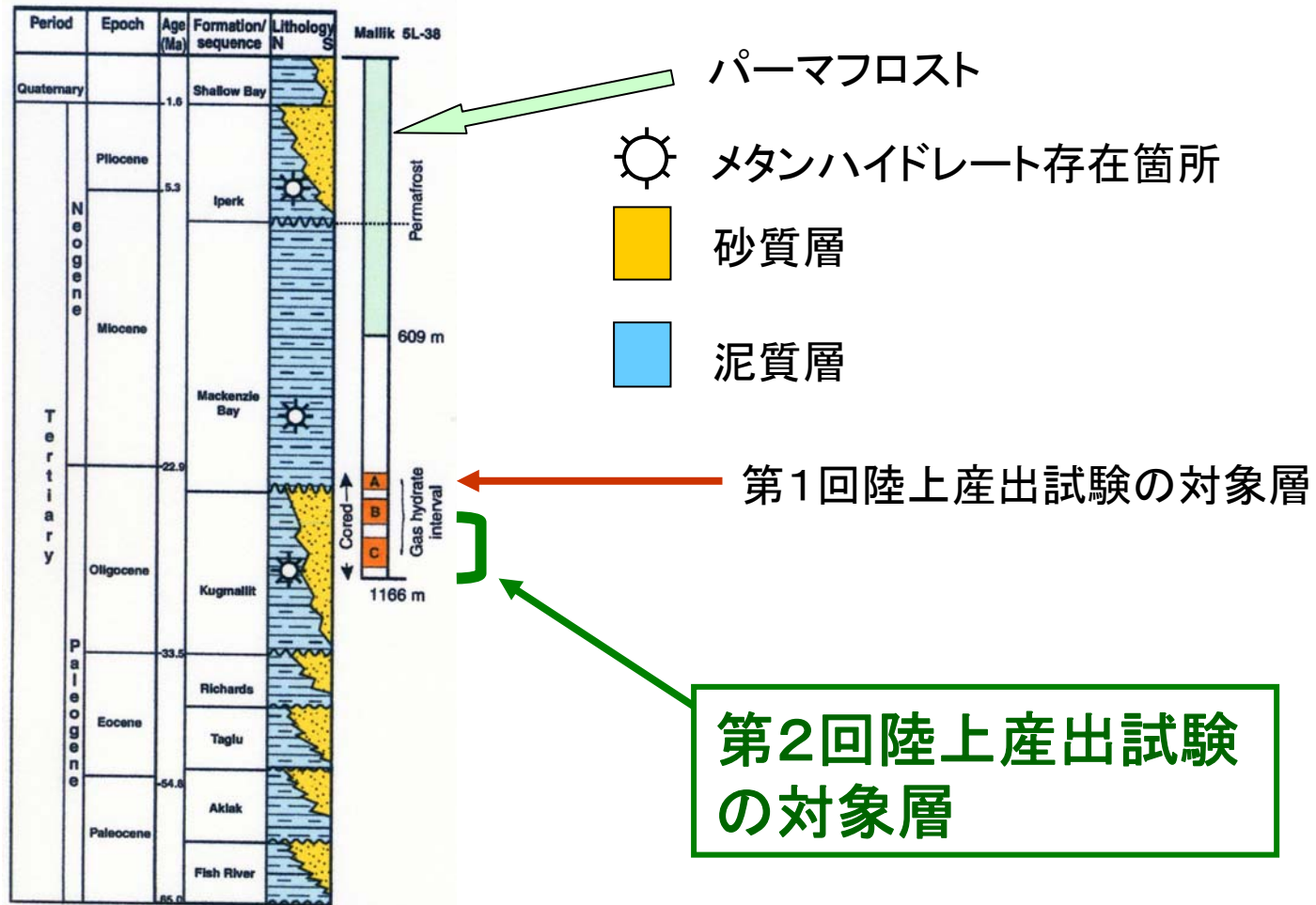
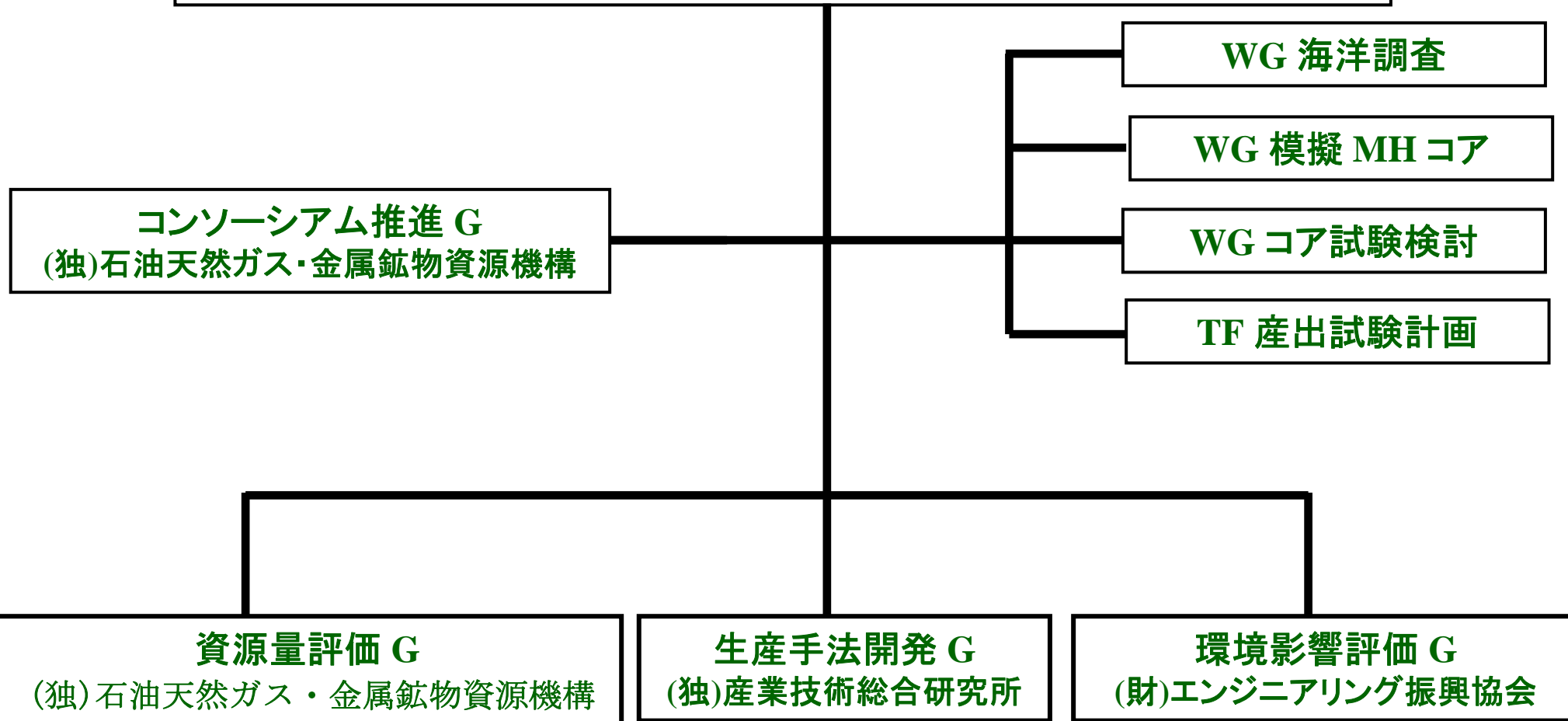


Figure 2. Stratigraphic column showing Tertiary stratigraphy and gas hydrate occurrences (☼) in the Mackenzie-Beaufort region (modified from Dixon, 1995). Permafrost, cored interval, and gas hydrate occurrences in the JAPEX/JNOC/GSC et al. Mallik 5L-38 well are shown schematically but not to scale.



# 平成18年度実施体制図

## メタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム



# 成果報告・情報活動(1)

- ◆ 平成17年度成果報告会開催

平成18年5月26日

オリンピック記念青少年総合センター

出席者数:213名

- ◆ 外部発表

205件

内訳⇒学会講演:126、論文発表:30、

プレスリリース:49件

# 成果報告・情報活動(2)

## ◆ 国際会議等の参加・開催

- Western Pacific Geophysics Meeting(WPGM2006):  
2006 7/25~26 :中国.北京
- 5th International Workshop on Methane Hydrate Research and Development:  
2006 10/9~12:英国. Edinburgh
- AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting:  
2006 12/11~14 :米国.San Francisco
- 2006-2008 Gas Hydrate Production Research Project R&D Meeting:  
2006 9/19~22:JOGMEC(TRC),SKK(Fuchinobe),AIST(Sapporo)

## ■ MH21ホームページ

アクセス数:約6,200回/月(3月末時点)

質問コーナーへの個別回答: 40件(3月末時点)

ご清聴ありがとうございました。